

国語教育相談室

小学校
no.
93

光村図書

特集

深い学びを支える学校図書館

わたしと
ここは
ネクストワン！
塚本勝巳

外国語と
外国語
街で見かける
ローマ字と英語

デジタル
「古典の世界（二）」（五年）

国語
指導
学びの連続性を
意識して

書写
「字体・字形」とは

本誌は、文部科学省による「教科書採択の公正確保について」に基づき、（一）社、教科書協会が定めた「教科書発行者行動規範」にのっとり配布しております。

2018, いっしょにはじめませんか。 これからの学び。



学びの限らない未来をひらく。
光村図書のデジタル教科書。

体験版（指導者用）はホームページよりダウンロードできます。

www.mitsumura-tosho.co.jp/digital/

指導者用 平成27年度版小学校教科書準拠

光村「国語デジタル教科書」1～6年

2年ライセンス
(DVD付版) 各46,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「書写デジタル教科書」1～6年

DVD版 各21,000円＋税
ダウンロード版 各7,000円＋税

光村「社会デジタル教科書」5年 6年

DVD版 各72,000円＋税
ダウンロード版 各23,000円＋税

光村「せいかつデジタル教科書」上下巻

DVD版 60,000円＋税
ダウンロード版 20,000円＋税

2年ライセンス
DVD版 使用期間は、ライセンス発行日
より平成32年3月までです。

ダウンロード版 使用期間は、平成27年度版教科書使用
期間内の1年間です。

※指導者用デジタル教科書は学校フリーライセンスです。学校フリーライセンスとは、
校内でご利用になる指導者用パソコンの台数を制限しない契約です。

CoNETS® 光村図書は、CoNETSに参画しています。
www.conets.jp

学習者用 国語デジタル教科書
3～6年



ともに学ぶ授業に

伝え合う力が
身につく授業に

個に応じた授業に

Windowsストアアプリ

各1,500円＋税

／1端末（1年間利用）



光村図書

小学校 国語教育相談室 通巻No.180 2018(平成30)年1月25日発行
発行人＝小泉 茂 発行所＝光村図書出版株式会社 東京都品川区上大崎 2-19-9 〒141-8675 電話 03-3493-2111
www.mitsumura-tosho.co.jp E-mail:koho@mitsumura-tosho.co.jp 印刷所＝協和オフセット印刷株式会社 デザイン＝mg-okada

個人情報の取り扱いに関しては、弊社「個人情報保護方針」にのっとり、適切な管理・保護に努めてまいります。
詳しくは、光村図書ウェブサイトをご覧ください。 www.mitsumura-tosho.co.jp 広報紙の配送停止をご希望の方は、光村図書出版までご連絡ください。

ネクストワン!

しばしば講演や出前授業に出かけてゆく。話の最後によく使う言葉が、これだ。元になった話はチャップリンともピカソとも言われる。真偽のほどは定かではないが、ピカソが好きなので、学生や若手研究者に彼のエピソードとして紹介している。

九十歳を超えたピカソに、こう尋ねた者があった。「数あるあなたの名作の中で、最高傑作はどれですか？」ピカソは即座に答えた。

「ネクストワン！」

老境にあるピカソが見せた、衰えを知らぬ旺盛な創作意欲に驚くと同時に、人間が本来もっている、底抜けに明るく前向きなエネルギーに私自身大いに勇気づけられたものである。

なぜ動物は旅をするか？

魚はどのように回遊するのか？

もう四十年以上も、魚を材料に動物の回遊行動を研究している。

これまでにアユやサケ、ハゼやウナギなど、たくさん

の回遊魚を研究してきたが、ウナギにかけた時間がいちばん長い。他の魚に比べ、ウナギの生態には謎が多かったためかもしれない。

川の魚のように思われているウナギは、実は遙か海の彼方で生まれる。はるばる何千キロメートルもの旅をして、成長のため川にやってくるのだ。そして親になると、自分が生まれた外洋の産卵場を目指して正確に戻ってゆき、卵を産んで一生を終える。

こんなにもダイナミックで、不思議がいっぱいの一生を送るため、ウナギは研究者の心をつかんで離さない。ひとたびウナギを研究すると、すっかりハマってしまっわけだ。二〇〇九年五月、私たちはついにウナギの卵を採集することに成功した。世界初の発見である。そこはマリアナ海溝の北約百キロメートルの地点であった。

これで古代ギリシャのアリストテレス以来二千四百年も続いたウナギ産卵場の謎は完全に解明された。しかし、研究はモグラ叩きのように、一つ謎が解けると、またすぐ新たな謎が生まれるものである。

今私には、あの真つ暗で広大な海の中、どのようにして雄ウナギと雌ウナギが出会うことができるのか、なぜ産卵はあの地点でなくてはならないのか、知りたいことがたくさんできた。心の中で「ネクストワン！」とつぶやきながら次の航海に向けて準備をしているところである。



Photo by Eric Chauvet

1948年岡山県生まれ。現在、日本大学教授。東京大学名誉教授。1971年東京大学農学部水産学科卒業。2007年 日本農学賞・読売農学賞、2012年 日本学士院エジンバラ公賞、2013年海洋立国推進功労者表彰(内閣総理大臣賞)。著書に『ウナギ 大回遊の謎』(PHP研究所)、『うなぎ 一億年の謎を追う』(学研教育出版)、『魚類生態学の基礎』(恒星社厚生閣)、『Eels and Humans』(Springer)など多数。

CONTENTS

わたしとことば 01 ネクストワン! 塚本勝巳

特集 02 深い学びを支える学校図書館

これからの学校図書館 Q&A 田揚江里

学校図書館の運営のしかた

学校図書館を活用した授業

事例1「百科事典探検」(3年) 埼玉県川越市立南古谷小学校

事例2「ブックトーク」(5年) 長野県駒ヶ根市立赤穂南小学校

学校図書館の工夫いろいろ

国語と外国語のよりよい関係 14 街で見かけるローマ字と英語 森 篤嗣

デジタル教科書を効果的に活用しよう 16 「古典の世界(一)」(5年) ほか
— 古典を感覚的に味わうことで、興味・関心を高める — 高崎智志

常用漢字の字体・字形 20 「字体・字形」とは 武田康宏

なるほど国語指導 11 22 学びの連続性を意識して 作・画／あべかよこ
監修／興水かおり

深い学びを支える

学校図書館

「主体的・対話的で深い学び」の実現のためには、今後、学校図書館の役割がますます重要になるといわれています。そこで今回は、深い学びを支える場としての学校図書館を取り上げます。運営のしかた、効果的な活用のかたなどについて、司書教諭の先生や学校司書の方にお伺いしました。

これからの学校図書館

新しい学習指導要領のもと、学校図書館をどのように活用していけばよいのか、田揚江里先生（日本女子大学非常勤講師・元狛江市立緑野小学校司書教諭）にお伺いしました。

Q 学校図書館とは、そもそもどのような役割を担っているのでしょうか。

A なぜ学校には図書館が設置されているのでしょうか。学校図書館は学校教育課程の展開に寄与する」と定義しています。静かに本を読む場と考えられてきた図書館を、「学習センター」「情報センター」の機能も有し、子どもたちが資料活用や探究のスキルを学び学習活動をする場にしなくてはなりません。学校図書館は、次の三つの機能を有する

施設です。

● 読書センター

子どもたちと本の出会いをさまざまな手立てを工夫してコーディネートし、全教育課程を見通した読書指導計画を作成し、推進して読書の力を培う。

● 学習センター

学習を支える資料や、図書館で学習が行えるような黒板などの整備をはじめ、学習活動への支援、教職員の教材研究のためのさまざまな支援を行う。

● 情報センター

子どもたちの情報リテラシーを育成し、さまざまなメディアを活用して学習することへの支援を行う。

総合的な学習をはじめ各教科の学習も学校図書館が機能なくては深まりをもてないのです。そのために、学校図書館の利活用を推進する司書教諭が配置されています。さらに、学校司書配置を加速化する動きもでてきています。

Q 「学校図書館を活用して授業を豊かに」といわれたいますが、効果的な活用のかたを教えてください。

A 例えば、説明的文章は、読み込んでいくと問いがたくさん生まれます。

まずはそれらを調べることから始めてもよいでしょう。子どもたちが図書館で調べること慣れない場合は、関連した資料を図書館から選び学級に配架する方法もあります。そのとき、教師が必ず資料に目を通すことが必要です。教師自身の教材研究になりますし、何よりも子ども向けと思っていた資料が、実は大人にとっても新しい発見をもたらすレベルの高い内容であることを実感されるはずです。

また、国語の教科書には、並行読書や調べ学習を促す単元がありますが、大切なことは、まずは土台となる本文を丁寧に学習することです。図書館活用のために本文があるではありません。この単元を通して培う力や、調べる学習にその力がどうつながるのかをはっきりさせた授業を組むことにより、子どもたちの資料を読む視点が定まり、情報が探しやすくなります。

Q どうすれば、子どもたちが学校図書館を主体的に活用するようになるのでしょうか。

A まず、日頃の授業が「問いの生まれる授業」になっているでしょうか。

読むきっかけは「担任に紹介されたから」が多く、回答を占めます。

③お話を読んでもらうのは好き、でも自分では読めない子どもがいます。そんな子はたいてい、文をすらすら読むのが苦手です。家庭と連携するなどして、すらすら読む力を並行して育てなければなりません。

④は③とは逆に、すらすら読めるけれど、読まない子です。子どもたちにとって内容が分からないまま背表紙から選書することとは、かなり高度なことです。そんなときは個に合わせて「これ読んでみない？」とお話の内容をちよつと話して紹介する、友達どうしのお薦め本の交流も効果的です。学校司書が配置されていればプロの力を借りましょう。

⑤は①～④までに関わることでいちばんのポイントです。毎日の読書の時間に、子どもたちがどんな本を読んでいるか観察すると、一人一人の読書のレベルが分かります。どんな本を読み聞かせすれば、子どもたちが頭の中にイメージが描けるか、その子の読書の力を見極め、興味や関心と合わせてどんな本がお薦めか、教師自身がたくさん本の引き出しをもっていることが求められます。初めは学校司書や公共図書館の司書に選書を相談するとよいでしょう。

主体的な学習がなされていないと、問いも課題も生まれません。その問いを解決するために学校図書館があります。しかし、すばらしい図書館があったとしても、それらを活用するスキルを身につけていなければ意味がありません。図鑑、百科事典、国語辞典、漢字辞典、年鑑を必要に応じて使用する、目次から見当をつけて探すなどのスキル指導が必要です。

国語の教科書にはそういった単元が組み込まれていますが、それとあわせて、資料活用のスキル指導や、レポートの指導、思考を育てる過程が紹介されている本などを参考にされるとよいと思います。

学校司書が配置されている自治体では、「図書の時間」に協働して指導を行う学校が増えています。未配置の場合は学区の公共図書館に問い合わせて指導用資料の貸し出しを受けたり、リストをもらったりするなど日常的に連携を進めていきましょう。調べたい情報を見つけ、自分の知の世界が広がることは楽しいことです。子どもたちが、分かる楽しさを実感できるように準備をしましょう。

Q 新しい学習指導要領のもとで、特に心がけるべきことは何でしょうか。

A 「主体的・対話的で深い学び」を実現するためには、学校図書館の活用は不可欠です。探究型の学習がますます求められます。しかし、学校図書館の機能を使いこなせる手立てを一人一人の教師が身につけていなければ学校図書館活用は進みません。校内で探究型学習のプロセスや手立てを研修する機会を増やす必要があります。

* * *

学校図書館の実態はさまざまです。学校司書が未配置の場合、図書館の整備も十分ではないかもしれません。また、活用したくても資料が足りない場合もあります。そんなときは公共図書館との連携をお勧めします。

公共図書館に「使用学年」「単元の概略」「資料活用で育てたい力」などを伝え、学級の人数の二倍くらいの資料の貸出を依頼します。公共図書館の中にはその地区で使っている教科書を備え、内容を見ながら

Q 子どもたちの読書量を増やしたいのですが、よい手立てがあったら教えてください。

A 読書量を増やすためには、子どもたちを読書好きにすることです。そのためのポイントは五つあると考えます。

①本を読む時間を保障する。

②連続した読み聞かせをする。

③自分の学年または一学年下の国語の教科書をすらすら読めるようにする。

④おもしろいと感じる本に出会わせる。

⑤担任が絵本や児童文学を読んでいる。

①「朝読」などを設定して、学級で毎日五十分間の読書をするをお勧めします。読書の苦手な子どもたちはお話の世界に入ることや、集中すること自体が苦手な場合も多いので、短時間で集中させ終わらせませす。読む本は事前に手元に用意させましょう。初めはイメージを描く力を育てるために9類(文学)の本に限るとよいと思います。おもしろくなってくると先が読みたくて、ちよつとしたすき間の時間にも読むようになります。

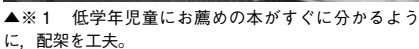
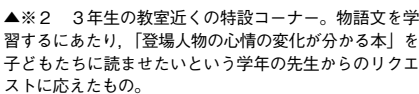
②担任の連続読み聞かせも効果があります。長編物でも、次はその本を自分で読みたくなります。さまざまな調査でも、本を

資料提供を行う図書館もあります。資料だけでなく、ブックトークやアニメーションも教師ができない場合は公共図書館のプロの力を頼りましょう。そのうえで自校の学校図書館整備に学校全体で取り組んでください。

た あげ え り
田 揚 江 里

公立小学校に、再任用も含め41年間勤務。司書教諭として、学校図書館の整備・充実に努める。現在は、学校図書館を利活用した学習指導法の講義や講演のほか、勤務校であった緑野小学校では学校図書館スーパーバイザーとして、さまざまな支援にあたっている。





「子どもの興味・関心は一人一人異なります。それぞれの子どもの好みや発達状況をいちばん理解しているのは担任の先生です。選書に迷っている子どもがいたら、担任の先生の出番なんですよ」とおっしゃる中島先生。司書教諭として、学校図書館の運営に精力的に取り組みながら、それぞれの役割を生かすことを常に心がけているようでした。

——子どもたちの学びを支えるために、学校図書館の中で工夫されていることは何でしょうか。

——中島先生は六年生の学級担任も受け持ちながら、司書教諭としての時間をどのようににつくっているのでしょうか。

司書教諭としての業務を遂行するための時間を、週あたり15時間程度つくってもらっています。書写などの授業を他の先生に受け持ってもらうなどの調整をして、時間を捻出しています。この15時間を使って、他の学年の授業を支援したり、図書館の整備をしたりしています。

ための支援を考えています。

○読みたい本を、子ども自身が見つけられるよう、配架を工夫(※1)。

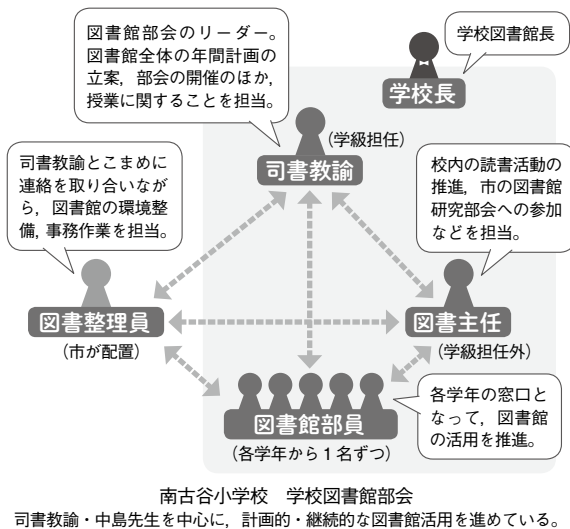
○いろいろなジャンルの本に興味をもつよう、各学年推奨図書「ゆめのくに25選」「わくわく20選」を選定。それらの本の背にシールを貼り、すぐに分かるようにしておく。これを一年かけて読めるよう、学級担任を通して子どもたちに指導する。

○並行読書を推進するために、教室の近くに特設コーナーを設置(※2)。学年ごとに、授業の内容や校外学習などに関連した内容の本を、時期に合わせて複数提示する。

「調べ学習」のための支援

○必要な本を自分で探せる子どもを育てるために、年度初めに「学びのスキル年間計画表（各学年において、学校図書館で身につけたい力を一覧にしたもの）」を作成し、全学級担任と共有する。

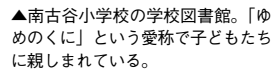
○調べ学習のスキルを身につけられるよう図書館の使い方や、国語辞典・百科事典の使い方、NDC（日本十進分類法）などの指導にあたる。これらの授業は、学校図書館の中で司書教諭が行い、学級担任はT2として、さらに図書整理員にも授業支援に入ってもらう。（↓次ページ「学校図書館を活用した授業」事例1参照）



——南古谷小学校では、先生方がどのように連携されて、学校図書館の運営にあたっているのでしょうか。

学校図書館の運営方法について、埼玉県川越市立南古谷小学校の取り組みをご紹介します。同校で司書教諭を務める中島晶子先生にお伺いしました。

学校図書館の運営のしかた



本校は、上記のような学校図書館部会を組織し、司書教諭を中心に運営を進めています。主な業務は、司書教諭のほか、図書整理員（いわゆる学校司書）と、図書主任とで分担しています。学校全体で図書館の利活用を推進するために、さらに、各学年の学級担任から一名ずつ図書部員も任命しています。図書館部会の定例会は、年に三回（学期に一回）程度ですが、新しい図書を購入するときや、読書感想文の審査などのために、臨時で部会を開催することもあります。

具体的には、校内で次のような連携をとっています。

例：新しい図書を購入する場合

図書館部員…学年で購入したい図書の要望を出す。

▶「背」→「つめ」→「柱」という手順と一緒に確認していきます。

▼ミッションをクリアした子どもは、友達をサポートに入ります。手厚い支援体制で、クラス全員がミッションクリア！



4 三人の先生で丁寧な指導

ミッションには、ステージ1とステージ2があります。ステージ1は、どこに載っているかを探せたらクリア、ステージ2は、「キャビアは何のため？」、「人間のつめは、一日にどのくらい成長する？」などのクイズです。質問に答えるためには、文章をよく読まなければなりません。

使い方に戸惑っている子どもには、個別に丁寧に指導します。本時は、司書教諭、学級担任、図書整理員の三人体制なので、支援はしっかり行き届いたようです。



館内からは、次第に「あった！ヤツメウナギのことだ」という発見した喜びの声が聞こえてきました。索引の便利さが実感できた学習となりました。

授業後に子どもたちからは、「背、つめ、柱があるので、どこに何があるのか」がすぐに分かって便利だと思った」「調べものをするときは、百科事典を使いたいと思った」といった声が上がりました。今後、さまざまな課題の解決に向けて、積極的に百科事典を活用していこうという姿勢が身についたようです。中島先生は、「使い方が分かるだけでなく、これから実際に活用することが大切」とおっしゃっていましたが、そのねらいは十分達成されそうです。

先生 では、先生からのミッションです！
児童 ミッション！何、何？
先生 封筒の中に、班の人数分のミッションが入っているの、百科事典を使って答えを見つけてください。

実際に何度も使ってみることが大切なので、「ポプラディア」は公共図書館などから借りて、四人に一セットずつ行き渡るように用意しました。さらに、四人が使用する巻が重ならないように、ミッションは別々のものを用意するのがポイントです。

B 百科事典でしらべてみよう
3年 組 番 ()
百科事典「ポプラディア」の何巻、何ページにのっているでしょう。

	ことがら	巻	ページ
例	一輪車		227
1	クエ		
2	ターメリック		
3	スミロドン		

→ 答え合わせをしてステージ2へすすもう。

▲ミッション・ステージ1のワークシート。
※ミッションは、川越市立大塚小学校・鈴木恵理先生作です。

4 先生からの挑戦状！

使い方が分かった子どもたちに、先生から挑戦状です。

先生 スナヤツメって何なのか、先生に教えてくれる？

子どもたちは、はりきって調べますが、見出し語になっていないので誰も見つけることができません。「載っていないよ」という声が次々に上がります。

ここで中島先生は、ミッションでは使わなかった索引(12巻)を使ってみよう促します。



1 百科事典って何？

司書教諭・中島先生による「百科事典探検」の間です。調べ学習のときに欠かせない百科事典の使い方を学びます。

まずは、スライドを見ながら、国語辞典と百科事典の違いについて確認していきます。例として、「犬」という言葉が載っているページを見てみます。

児童 百科事典は、絵がついているし詳しいね。

児童 読みたくなる雰囲気！子どもたちからは、百科事典に興味をもつ声が上がりました。



2 百科事典の使い方

今回の授業では、総合百科事典「ポプラディア」(全12巻)を使用します。実物を提示しながら、使い方を丁寧に説明します。

- 例「なみだ」を調べる
- ①『昔』で、何巻に載っているか確認↓(新訂版では) 8巻。
 - ②8巻の「つめ」で、「な」のページを開く。
 - ③ページ上部の「柱」を見て、「なみ…」を探す。
 - ④ページが分かったら、項目を一つずつ目で追って「なみだ」を見つける。

学校図書館を活用した授業

事例1「百科事典探検」

指導形態 司書教諭による指導。学級担任はT2として、さらに図書整理員(学校司書)も支援に入る。
本時のねらい 百科事典に興味を持ち、使い方を理解して、学習や生活に生かす。

埼玉県川越市立南古谷小学校
司書教諭 **中島晶子** × 三年生(34名)

事例2「ブックトーク」——「天気を予想する」(五年)と関連させて——

長野県駒ヶ根市立赤穂南小学校

学校司書 米山篤美^{よね やま あつみ} × 五年生(35名)

指導形態

学校司書によるブックトーク。学級担任(司書教諭)はT2として支援に入る。

本時のねらい

本時は、「天気を予想する」(「国語」五年p138)の二時である。科学的な読み物に興味をもち、写真や絵を使った説明のしかたに着目する。

Y1 ブックトークを始めます



学校司書・米山先生によるブックトークの時間の始まりです。これから紹介する本がどんなジャンルのものなのか、子どもたちと対話しながら伝えていきます。

司書 武田康男さんって知っている？

児童 知ってる！ 国語の教材の筆者でしょ？

司書 そうそう！ よく分かっているね。

児童 さっき、二時間目に勉強したよ。

司書 今日は、その武田さんの本を何冊か紹介するね。

国語教材「天気を予想する」は、数時間前に学習したばかりなので、子どもたちは筆者の名前をよく覚えていました。タイミングを捉えて、ブックトークを行います。

Y2 筆者の武田さんって、こんなことをしている人



司書 これは、台風が過ぎた後の東京お台場の写真です。台風が過ぎた後って、こういう空になるんだよ。

児童 台風の後って、晴れるんだよね。

司書 そうだよ。これは、『すごい空の見つけた』という本で、どんなときにどんな空が見られるのかということ、写真と文章で教えてくれます。

司書 武田さんって、南極にも行ったことがあるんだよ。

児童 えっ！ 冒険家なの？

司書 観測隊員として、一年間南極に行っていたそうです。この本『南極大陸のふしぎ』では、そのときの様子を、たくさんの写真と文章で紹介しています。

Y3 紹介した本は、横のラックに



武田さんの本は、全部で四冊紹介しました。紹介した本は横のラックに入れ、表紙が見えるように置いておきます。ブックトークの後の自由読書の時間に、子どもたちが手に取りやすくなるようにしておきます。

『ブックトークで取り上げた本』

『地球は本当に丸いのか？』

(草思社／二〇一七年)

『すごい空の見つけた』

(草思社／二〇〇九年)

『南極大陸のふしぎ』

(誠文堂新光社／二〇一三年)

『雲と天気大辞典』

(あかね書房／二〇一六年)

Y4 地域・学校の特性を考慮して選んだ本も

次に、地域・学校の特性を考慮して選んだ科学読み物の紹介です。

司書 最近、あちこちで、きのこを見かけるようになったね。

児童 ああ、見るね、見るね。

司書 今日は、きのこに関する本も紹介するね。

本学級の子どもたちは、前年度まで森での活動を活発に行っていました。また季節がら、学区域では野生のきのこを見かけます。

『不思議の国のアリス』で、アリスの体の大きさを変えたテングタケの話や、子どもたちに人気のゲームソフト「マリオシ

リーズ」に出てくるきのこのことなど、米山先生は子どもたちを引きつけるエピソードを巧みに盛り込みながら、本を紹介します。

司書 学校の近くで、物語やゲームに出てくるきのこを見かけても、毒があるかもしれないのでむやみに触ったり食べたりしてはいけませんよ。

最後に、きのこに関する注意点にも触れて、ブックトークを終えました。



▲自由読書の時間になると、多くの子どもたちが学校司書・米山先生のもとへ。

赤穂南小学校は、全学級が週に1時間、図書館の時間を設けています。主に、国語の時間から捻出しており、今回のようなブックトークのほか、読み聞かせ、本の貸し出しなどを行います。

学校司書の米山先生は、市から派遣されている常勤職員です。「忙しい先生方とはなかなか打ち合わせをする時間がありませんので、年間指導計画を頭に入れておいて、休み時間に教室まで行って話をするなど、積極的かつこまめにコミュニケーションをとるよう心がけています」とのこと。司書教諭の平澤先生によると、「先生方や子どもたちからの信頼は厚く、赤穂南小学校の学校図書館に欠かせない存在」なのだそう。

もっと本が 読みたくなる

▼先生からのおすすめの本。紹介文には、「先生も主人公と同じように…」「この本は、小学校高学年のころに読みました」など、先生自身の本にまつわるエピソードなども書かれています。子どもたちにとっては、とても興味深い紹介文です。(川越市立南古谷小学校)



▲国語の授業（「広がる、つながる、わたしたちの読書」）で、5年生がポップを作成。完成したポップを、図書館入口の廊下に掲示。多くの子どもがこれを見て本を借りたそうです。(駒ヶ根市立赤穂南小学校)



▲読書の質を高めることをねらいとした「緑野文庫」。低中学年の枠で幅をもたせて選書。それをさらに初級・中級・上級のスモールステップに分け、子どもが選書しやすいようにしています。また、「ただページをめくっているだけ」にならないよう、例えば低学年は、読後にクイズを実施。クイズに答えられるように読むことで、確かな読解力が身につきます。(狛江市立緑野小学校)

▶課題図書の別置コーナー。ノンフィクションの読み方を指導するために、各学年、課題図書を設定しています。右の写真は、5年の課題図書『森は生きている』（富山和子 著）の別置コーナーです。内容理解の助けとなるよう、本に登場する、現代の子どもにはなじみのない道具を実物で展示しています。(狛江市立緑野小学校)



図書館が 使いやすくなる

▼図書館の入り口に、館内マップ（「ゆめのくに」は図書館の愛称）を掲示。NDCの分類を基準としながら、特に子どもたちが手に取る本や、調べ学習に必要な本は目立つように表示されています。(川越市立南古谷小学校)



学校図書館の 工夫いろいろ

子どもたちが使いたくなる、使いやすくなる図書館にするための、さまざまな工夫をご紹介します。

図書館に 居たくなる



▼読み聞かせコーナー。使用するときには、カーテンを引いて書架を隠します。そうすることで、余計な情報が目に入らず、読み聞かせに集中できる環境になります。また、段差があることで、どの場所に座っても本がよく見えるようになっています。新校舎建築の際、視察や検討を重ね、このようなつくりにしたそうです。(狛江市立緑野小学校)



▲書架の間には小さなベンチが設置されています。ちょっと本の内容を確かめたいときなどにちょこっと座れる居心地のよい場所です。(川越市立南古谷小学校)



街で見かける ローマ字と英語

ローマ字と英語、どちらもアルファベットで表記されているため、これらを混同してしまう児童がいるようです。今回は、ローマ字指導をする際に配慮すべきポイントをご紹介します。

京都外国語大学教授 森 篤嗣^{もり あつし}

1975年、兵庫県生まれ。国立国語研究所准教授、帝塚山大学教授などを経て、現職。国語科教育だけでなく、外国語としての日本語教育の研究にも従事する。光村図書小学校「国語」教科書編集委員。

ローマ字と英語は異なるもの

学習指導要領では、第三学年でローマ字の読み書きを学習し、その学習を基盤として、コンピュータで文字を入力するなどの操作の習得を行うこととしています。

小学校におけるローマ字の学習では、日本語の音が、原則として子音と母音の組み合わせで成り立っていることを理解させることが重要です。ローマ字は、英語でも使われるアルファベットではありますが、英語そのものとは基本的に異なるものであるといえます。

しかし、街に出るとアルファベットは、ローマ字だけではなく英語でもよく使われており、外国語活動が始まる第三学年の児童にとって、その使い分けと混同は気になること

ろです。今回は、街で見かけるローマ字と英語について取り上げたいと思います。

実はローマ字より英語のほうがよく見かける

まず、考えてほしいのですが、「MIKE」というアルファベットを見たとき、あなたはどのように頭の中で音声化するでしょうか。おそらくは、英語の人名として「マイク」が先に思い浮かび、ローマ字読みの猫の名前である「ミケ」は出てきにくいのではないのでしょうか。

私たちが「MIKE」を「マイク」と思い浮かべやすいのは、私たちの日常生活においても、ローマ字より英語のほうが触れる頻度が高

街の道路標識のローマ字

では、「街の道路標識を写真に撮って集めてみましょう」というのは、ローマ字学習にとって適切でしょうか。実はこの学習方法にも少し問題があります。

左の写真(※1)をご覧ください。本来であれば、長音記号を付けるべきところが、省略されています。これでは、「2チヨメ」「トカイド」になってしまいます。

観光地を中心に交通案内標識を量的に調査している研究(※2)によると、収集したデータの71%が「長音記号なし」になっているとのことで、なんと長音記号がないほうが多いのです。これは、実はコンピュータの入力ルールにも共通することです。子どもたちには、本来のローマ字表記とは異なることを



▲※1 街で見かける道路標識の例

伝え、混乱が生じないように注意を促すことが必要です。

街でアルファベットを探しては

では、どうすればより自然な学習活動になるでしょうか。それは、本連載の趣旨でもある国語科と外国語活動・外国語科の連携が解消してくれるかもしれません。具体的には、街で「ローマ字」を探すのではなく、開き直って「アルファベット」を探してみてもいいかがでしょうかという提案です。

ローマ字の正確な知識は教室でも学習できます。それよりも、国語科としては、「街のどこでローマ字が使われているか」を学んだほうが効果的ではないでしょうか。社会科にもつながるかもしれません。

そして、集まってきたものをひとまずローマ字として読んでみて、日本語として理解できないことを確認させたいうえで、それが英語や他の言語ということに気づかせます。そのうえで、先ほどの「STOPPU」のように、無理にローマ字に置き換えてみる練習をしてはどうでしょうか。「こんなの見たことない!」となれば、ローマ字と英語は違うということが理解でき、外国語活動・外国語科にもつながります。



イラスト：カモ

ローマ字はあくまで日本語の表記法の一つであり、英語とは異なるという「違い」をしつかりと学習することこそ、ローマ字と英語の混同を避けるために役立つのです。

※1：本田弘之・岩田一成・倉林秀男(二〇一七)「街の公共サインを点検する」大修館書店
※2：荻山剛秀・矢沢勇(二〇〇四)「ローマ字表記地図および地図記号に関する実態調査作業」『国土交通省国土地理院調査研究年報』p.53-54



伝統的な言語文化

「古典の世界（一）」（五年ほか）

― 古典を感覚的に味わうことで、興味・関心を高める ―

古典教材を扱う際、まずは文章の内容を理解させたいと考え、現代語訳や解釈を行うことが多いと思います。しかし、すればするほど、子どもたちの反応がだんだん鈍くなる、といった経験はないでしょうか。今回は、指導者用「国語デジタル教科書」（以下、「デジタル教科書」）に収録されているワーク・資料や、朗読、書き込み機能などを効果的に活用することで、子どもたちの興味・関心を高める実践をお伝えします。



1974年生まれ。広告代理店勤務を経験した後、公立小学校教諭に。横浜市小学校国語研究会を中心に、市内の国語教育推進に取り組む。

本単元では、音読を通して古文の言葉の響きやリズムを味わい、文章の内容の大体を知るとともに、昔の人のものの見方や感じ方について知ることができるとをねらいとしています。中学年で俳句や短歌について学習しているとはいえ、本格的な古典と出会うことが初めての子どもがほとんどです。出会う言葉や文章が難しいと感じてしまうと、学習意欲が低下してしまうので、普段見慣れない言葉が多く使われている古文に対して、どのように興味・関心を抱かせるかがポイントになってきます。

また、古文の現代語訳を読むだけでは、なかなか「昔の人のものの見方や感じ

指導目標

- ◎昔の人のものの見方や感じ方について知ることができる。【伝国(1)ア(イ)、イ(カ)】
- 古典の文章を音読し、言葉の響きやリズムを味わうとともに、文章の内容の大体を知ることができる。【伝国(1)ア(ア)、イ(イ)】

指導計画(全3時間)

1時	<p>『竹取物語』の始まりの部分の朗読を聞き、自分が知っている『かぐや姫』の物語との違いについて話し合ったり、今も使われている言葉を探しながら文章の意味を考えたりする。</p> <p>デジタル教科書の活用場面① 古典に親しみをもつて出会う。</p>
2時	<ul style="list-style-type: none"> ・『竹取物語』について解説した動画を視聴したり、始まりの部分で暗唱したりしながら、昔の人のものの見方や感じ方に触れ、感じたり考えたりしたことをワークシートに書く。 ・『平家物語』『徒然草』『おくのほそ道』の始まりの部分の音読し、その中からお気に入りの作品の一つを選ぶ。 <p>デジタル教科書の活用場面② 「昔の人のものの見方や感じ方」に迫る。</p>
3時	<p>自分が選んだお気に入りの作品について解説した動画を視聴したり、始まりの部分で暗唱したりしながら、昔の人のものの見方や感じ方に触れ、感じたり考えたりしたことをワークシートに書く。</p>

方」について知ることではできません。現代の子どもたちの生活との相違点を探りながら学習していくことが大切です。しかし、その際、違いだけでなく、現代との共通点にも着目することで、昔の人と、今を生きる自分とのつながりを感じ、「昔の人のものの見方や感じ方」に興味・関心を抱いていくと考えています。そこで、本単元では、次のような手立てを大切にしながら実践しました。

- ① 古典に親しみをもつて出会うための手立て
- ② 「昔の人のものの見方や感じ方」に迫る手立て

これらの手立てをより効果的なものにするために、デジタル教科書を活用していきます。

デジタル教科書の活用場面① 古典に親しみをもつて出会う

五年の教科書教材「古典の世界」は、(一)では『竹取物語』や『徒然草』などの古文、(二)では『論語』や『春曉』などの漢文が教材となります。どれも有名な古典ばかりです。「古典の世界(一)」では、登場するすべての作品を一気に扱

うのではなく、まずは「竹取物語」と出会うところから単元を始めました。

『竹取物語』は、有名な昔話『かぐや姫』の原作であるため、子どもたちは大体のあらすじを知っています。さらに、「いまはむかし…」という始まりの文から、聞いたり読んだりしたことのあるさまざまな昔話を想像する子どもも多くいます。そこで、導入場面で、原文を読ませるのではなく、耳で聞かせることからスタートします。デジタル教科書の朗読機能を使い、原文の朗読を聞かせます。

その際、デジタル教科書の教科書画面に映っている「竹取物語」に関する情報(題名、本文、現代語訳、解説等)は、ふせんを使って隠しておきます(※1)。「いまはむかし…」のところで、朗読音声の一時停止を行います。すると子どもからは、「桃太郎」「浦島太郎」などの昔話を想起した発言がみられ、「きつと昔話に違いない」と想像が膨らみます。そして、「たけとりのおきなといふものありけり…」のところで、昔話の『かぐや姫』だと気がついていきます。その後の朗読では、『かぐや姫』を思い出しながら聞き入っている姿が見られました。

続いて、「どうして『かぐや姫』だと分かったのか」について考えていきます。

本文をすべて隠してしまうと、朗読機能が使えなくなるので、文頭が少しだけ見えるように「ふせん」をのせるのがポイントです。



▲※1 『竹取物語』の教科書画面。朗読を聞かせている間は、題名・本文などは、「ふせん」を使って隠しておく。

子どもたちからは、「竹取」という言葉が出てきた」「(三寸)」という言葉が出てきた」などの発言が相次ぎました。そこで、隠しておいた本文を画面上に示しました。そして、書き込みツール(直線)を使い、「今も使われている言葉」にラインを引いていきます(次ページ※2)。子どもたちは、普段見慣れない古文の中から、自分たちが知っている言葉だけを見つけていきます。そして、知っている言葉だけをつなぎ合わせながら、この物語のあらすじを捉えていきました。

さらに、ラインを引かなかった言葉、つまり、「今は使われていない言葉」に



▲※4 「古典の世界(一)」のワーク『竹取物語』を暗唱しましょう。クリック一つで、言葉を隠したり表示したりすることができる。



▲※3 「古典の世界(一)」の動画資料「かぐや姫と五人の貴公子」。



▲※2 「竹取物語」の教科書画面。書き込みツール(直線)を使い、「知っている言葉」にラインを引く。

着目し、その意味を推測していきます。子どもがもとも知っている話なので、言葉の意味を推測するのは、それほど難しくありません。少しのチャレンジで決できる課題のため、どの子どもも意欲的に活動に取り組むことができます。「竹取の翁という人の名前が、(さぬきのみやつこ)なのかな」「もと光る竹」ということは、竹の根元が光っていたということかな。そうすると、この部分の説明し始める子どもも出てきます。デジタル教科書の朗読機能を活用しながら、まずは音声のみの情報に限定して提示する

ことで、子どもたちの知っている言葉をやっつけやすい状況ができ、本来難しく感じるはずの古文との出会いの壁をなく乗り越えることができました。そして、書き込みツールを使って、「知っている言葉(今も使われている言葉)」を視覚的に浮かび上がらせることで、逆に「知らない言葉(今は使われていない言葉)」に着目するようになり、意欲的に『竹取物語』の解釈を行う姿へとつながっていきました。

朗読機能は、古典の学習においてとても重宝します。「古典の世界(二)」の『春暁』では、教師が漢詩の原文を用意し、その原文を見せながら朗読を聞かせます。一見難しそうに見える漢詩の原文に対し、その読み方が分かり、子どもたちと漢詩との距離が一気に近づいていきます。初めは戸惑う子どもが多いのですが、『竹取物語』の授業と同じように、「知っている漢字」に着目させることで、興味・関心が高まっていきます。

また、六年の『柿山伏』では、狂言の言い回しを真似ながら音読する際、朗読機能の「ここを読む」(選択した部分のみ朗読する機能)が役立ちます。自分が担当する文章(台詞)のところを何度聞きながら練習する子どもの姿を見る

たちは、自分が知っている『かぐや姫』と比較しながら、『竹取物語』の世界に入っていきます。

また、三時で『徒然草』を選んで暗唱した子どもは、『ワーク・資料』の動画に登場する「高名の本登り」の話を知り、昔の人が日常の教訓として考えていたことが、現代にも通じていることに驚き、『徒然草』の他の話も読んでみたいと興味・関心をもっていました。

デジタル教科書では、古典教材の『ワーク・資料』が充実しています。五年には、『兼好法師と『徒然草』や『松尾芭蕉と『おくのほそ道』』などの解説動画や、『琵琶による語り(『平家物語』)』、六年には、『落語『初天神』』『狂言『柿山伏』の動画』などが収録されており、本物に触れることができる資料が多くあります。教材文だけではなく、それらの資料を有効に活用することにより、「昔の人のものの見方や感じ方」を感じるきっかけが増えると考えています。

また、古文や漢文を暗唱する際、『ワーク・資料』の暗唱用ワーク(※4)を活用すると、より効果的です。本文の言葉を隠したり表示したりすることができるので、子どもたちの暗唱の状況に応じて隠す量を調整するなど、少しずつステッ

ことができました。ただ音読するのではなく、実際の狂言の言い回しを聞きながら音読することによって、狂言独特のリズムや言い回しを実感することができ、その実感が、「昔の人のものの見方や感じ方」を知ることへとつながっていくのです。

デジタル教科書の活用場面② 「昔の人のものの見方や感じ方」に迫る

『竹取物語』のおおまかなあらすじを捉えた段階で現代語訳を提示すると、子どもたちは、自分の解釈と比べながら興味・関心をもって現代語訳を読むことができます。その後、現在も読まれている『かぐや姫』のあらすじを、子どもたちの記憶をもとに確かめていきます。昔話は、口承文学なので、物語の細部については、人によって内容が異なっていたり、記憶自体が曖昧だったりすることがあります。そこで、デジタル教科書の『ワーク・資料』の動画「かぐや姫と五人の貴公子」(※3)を視聴します。動画では、かぐや姫が貴公子たちに無理難題を課し、貴公子たちがそれを解決すべく奔走する様子が語られています。子ども

ブアップしながら暗唱をすることができ、原文を音読しながらひたすら暗唱することも大切ですが、デジタル教科書の視覚的効果を活用しながら、楽しく暗唱をすることで、難しい古典の文章との距離が縮まるのではないのでしょうか。

デジタル教科書を活用して

デジタル教科書の視覚的効果や聴覚的効果を活用しながら、子どもたちにとって難しいと感じる古典への導入を工夫する実践を紹介しました。子どもたちが、初めて出会う古典に対して難しいものと感じるか、おもしろそうと感じるか、その後の古典の学習との関連を考えると、その導入はとても重要だと考えています。また、子どもがなかなか想像しにくい昔の様子について、視覚的な資料を活用する効果は大きいと実感しています。しかし、動画資料を視聴すれば、必ず効果があるというわけではありません。動画資料の情報を限定したり、絵巻物などの静止画を活用したりするなど、子どもの実態に応じた工夫が必要です。デジタル教科書を効果的に活用することによって、古典を感覚的に味わうことができ、子どもたちの古典への興味・関心を高めることができると思っています。

2 「字体・字形」とは

文化庁文化語国語課 国語調査官 武田康宏



前回は、「常用漢字表の字体・字形に関する指針」が作成された背景についてお伝えしました。今回は、「字体」と「字形」についてさらに理解を深めましょう。

1966年、東京都生まれ。文化審議会国語分科会における「常用漢字表の字体・字形に関する指針（報告）」（2016年）、「常用漢字表」改定（2010年）、「異字同訓」の漢字の使い分け例（報告）」（2014年）の取りまとめ等に携わる。

「字体」と「字形」

「字体」とは「文字の骨組み」のことです。手書きされた文字には、書き癖や筆圧の差など、書いた人の個性がにじみ出ます。同じ漢字を複数の人が手書きすれば、程度の差はあれ、人数と同じ数だけ違った形の字が現れるでしょう。同じ漢字を印刷するときにも、明朝体やゴシック体のように、異なった形を持つたくさんの種類の印刷文字が選択できます。しかし、私たちは、書かれた文字が印刷文字かによらず、形の違いがある範囲に収まっていれば、それらを同じ文字として読み取ることができます。それができるのは、その文字の骨組みがそれぞれ

の漢字に共通して認められるからです。この骨組みが「字体」です。字体は、同じ漢字として認められるたくさんの文字から抽出される形の上での共通した特徴であり、文字の具体的な形状を背後で支えている抽象的な概念であるともいえます。

一方、「字形」とは、字体に肉付けされ、具体的に現れた個々の文字のさまざまな形状です。字体は骨組みですから、実際に書かれて具体的な字形となって現れるとき、その形は一定ではありません。同じ文字として認識される範囲で、無数の形状を持ち得ます。前述の例でいうなら異なる人の書いた文字やさまざまな印刷文字それぞれの形状ということです。字形はいろいろであっても、字体を備え

ていれば、その文字として認められるのです。

これまでの漢字指導では、漢字の字形の細かな違いまでが注目され、それによつて正誤の判断が行われる場合もありました。しかし、常用漢字表に基づけば、字体の違いに及ばないような字形の違いは正誤に影響しません。

字体を備えているとは
どういうことか

では、文字がその文字の字体を備えているとはどういうことでしょうか。まず、字形の違いが字体の違いに及ぶ例を見ましょう。「干」という字は、一画目を右

からはらうように書く「干」に、また、縦画の最後をはねると、「于」になります。これらは、点画の方向やとめ、はねの有無などによる字形の差が、字体の違いにまで及ぶ例です。「干」は一画目の運筆の方向を変えたり、縦画をはねたりすると、「干」の字体を備えないことになり、別の漢字になります。

一方、「比」と「風」、また「木」と「牧」という字は、資料1のいずれの書き方をしてもほかの漢字に見誤ることはありません。この場合、点画の方向や、とめ、はねを変えても、他の漢字やどんな漢字にも該当しないものにはならず、どちらも同じ字体を備えた同じ漢字であると判断されます。

比風木牧
比風木牧

▲資料1

また、大切なのは、例示した字形がどれも楷書で実際に使われてきたという点でしょう。昭和三十年代までの小学校の教科書にはいずれの字形も見られます。どちらの書き方をしても、本来は問題ないのです。

点画の長短、方向やとめ、はね、はらい、

接触の有無などの字形の差が字体の違いにまで及ぶ例は少なく、多くの場合、字の正誤を左右することはありません。ある字形が標準で、その他の字形は許容であるという考え方も本来はなく、正誤の観点だけでいえば、同じ字体を備えた字形は全て同値なのです。

字体の違いに及ばない
字形の違いの例

「常用漢字表の字体・字形に関する指針」には、字体の違いには及ばない多様な字形の具体例がたくさん示されています。そのうちのほんの一部を紹介しましょう（資料2）。いずれも楷書の文字と

長短に関する例

方向に関する例

無幸天世 真完紙曜 月案登究
無幸天世 真完紙曜 月案登究

はらうか、とめるかに関する例

はねるか、とめるかに関する例

その他 交差の有無 接触の位置など

船困地育 積景園空 女外白就
船困地育 積景園空 女外白就

▲資料2

楷書の字形の多様性を
理解したうえで

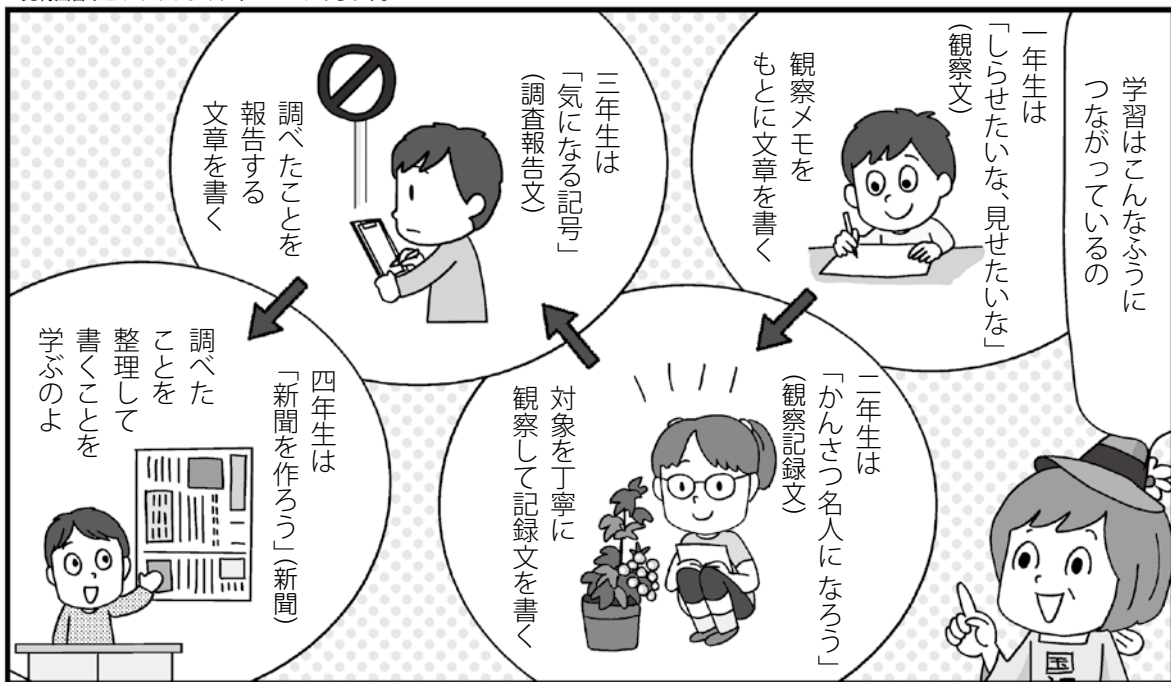
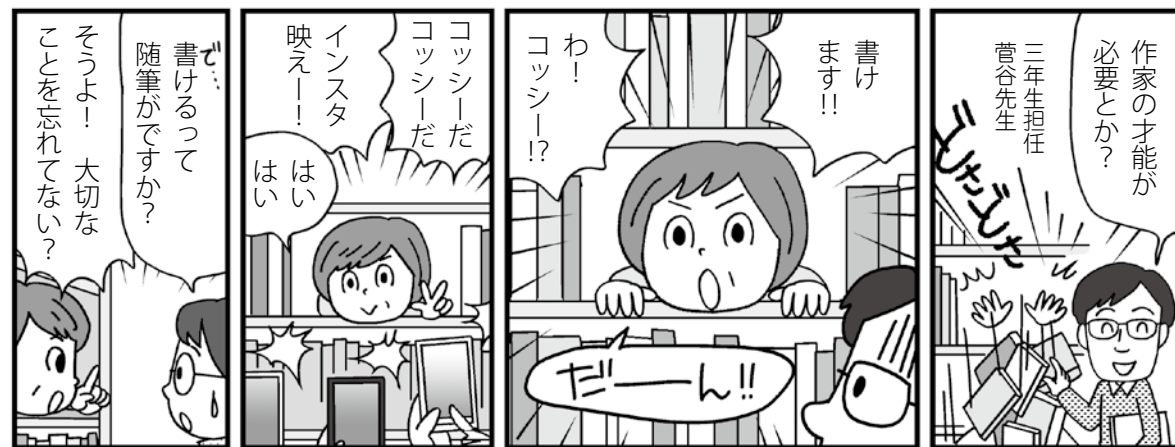
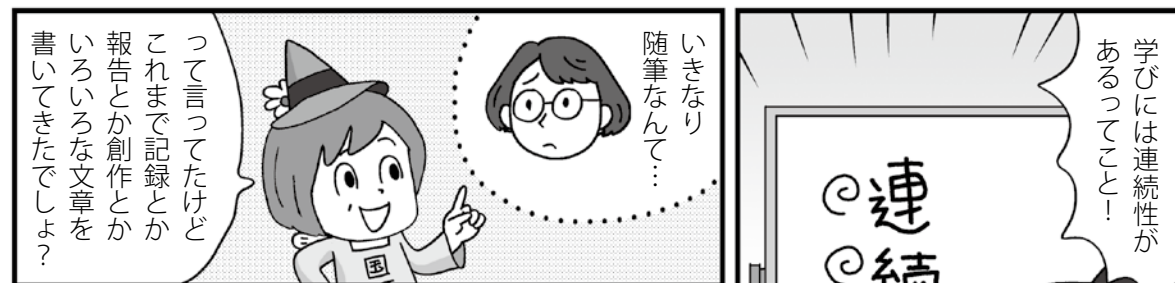
して問題のないもので、多くは、戦後の教科書にも実際に見られた字形です。

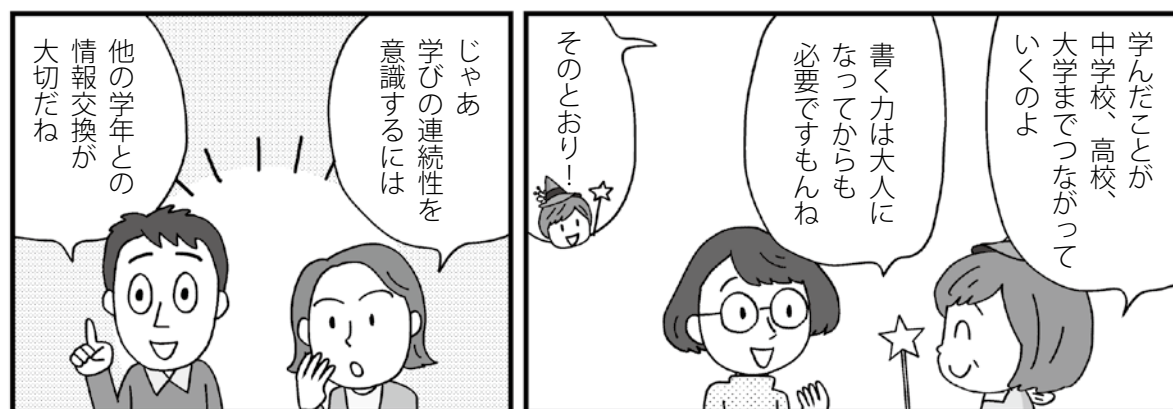
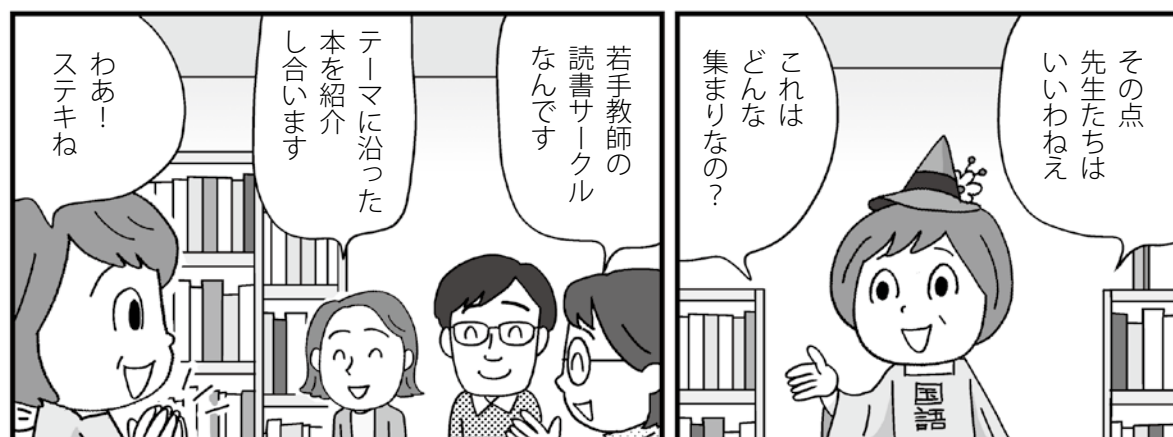
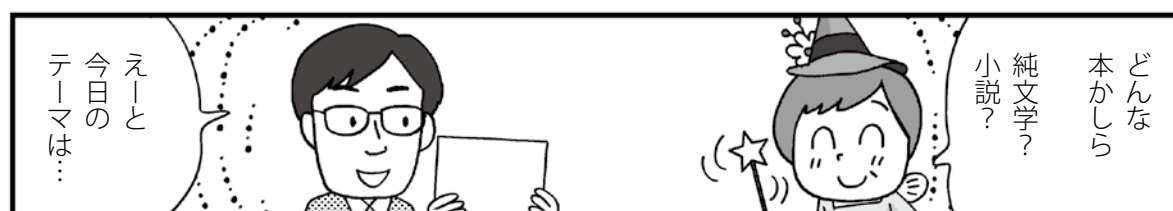
御覧いただいたように、筆写の楷書における文字の形は、本来とても多様なものです。学習指導要領に標準として示された漢字の字形、また、それに基づいた各教科書の字形だけが正しいわけではありません。

そのことを踏まえたくうえで、実際の漢字指導の場面では、どのように考えることができるでしょうか。次回は、その点を御一緒に検討しましょう。



※光村図書ウェブサイトよりダウンロードできます。





日常体験を自分の考え方や生き方に関連させて述べる随筆は、中学校で本格的に学びます。随筆に限らず「書くこと」では、特に学びの積み重ねを意識して、単元の学年間のつながりを共有する時間を！（コッシー）

